

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102073		
法人名	社会福祉法人日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホ - ムレーブそとめ式番館		
所在地	長崎市上黒崎町2199番地15		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境、そこで畑等を作り収穫、献立、おやつに取り入れています。老健との関連にて医師や看護師と連携して健康管理をしています。また医師による週1回の回診があります。献立は栄養士が作成しておりバランスのとれた食事が提供できます。毎月の誕生会や節分等、行事も多く、外出も定期的に行ない全員が参加されお弁当・おやつ等持参しています。毎月新聞を発行しご家族にも生活の様子をお伝えしています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 22 年 11 月 24 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする当ホームは、地域貢献を目指して大海原の見える風光明媚な高台に、老人保健施設の併設として開設されている。素晴らしい環境と職員の穏やかな笑顔のケアに利用者は安心してゆったり過ごされている。行事等で利用者と職員が一緒に外出した際には、集合写真を撮影して額入りで掲示されている。共用空間は和風の家庭的な趣きがあり、季節感を取り入れた飾りつけをされている。また利用者への安全に配慮して、避難経路のスロープを設け、庭の外柵工事も予定されており、地域や家族への透明性と信頼に繋がる前向きな取り組みとして、ホームページの作成にも研鑽されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人で作られた運営理念の意向を汲んで利用者一人ひとりがより良い暮らしができるように努めている。	法人の理念を掲示されている他、法人全体の職員朝礼で、その日のホームリーダーが、法人の「心訓」及び「人生訓」を唱和されている。利用者本位のケアに向けて、職員の意識を共有して支援に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事(盆踊りやふれ合い)に積極的に参加し、交流に努めている。	自治会に加入されており、職員と利用者の共同作品を製作後、ふるさと祭りなどに出品してみなさんで見学に出向いたり、地域の催しにはできるだけ参加して、地域の方との交流に努められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会の総会に参加し、パンフレットを配付したり、地域の人々に理解してもらうように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域との交流だけでなく、治安や災害についても意見交換を行っている。	会議は、2ヶ月を目途に実施され、地域包括支援センターの方や警察の方も参加されている。会議の議題の工夫や、参加者への広範囲の呼びかけ等により、情報を収集することに努め、会議の有効性を追求されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のすこやか支援課・包括支援センターの方に運営推進会議に参加していただき現状を把握していただいている。(たよりなども配付している)	更新手続き等は、法人内の事務所が取り扱うので相談などで市へ出向くことがないが、運営推進会議の場を有効に活用しての情報の収集に取り組まれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人ひとりに定着しており、日常生活の中で利用者に喜んでいただけるケアに努めています。	日中、玄関の鍵はされていない。身体拘束について、職員の意識の共有は図られている。身体拘束の必要性は現状ではないが、必要性がある場合は家族の同意を得る方針である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議の中で、虐待については話し合っており、理解して日々の業務に生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	面会時などに家族と相談し、必要な人には金銭出納帳を作成し管理を行っている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約については、老人保健施設の支援相談員が担当になっているので直接説明はしていないが、重要事項説明書についてはその都度説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者の要望や苦情については、サービス担当者会議で聞いて対応については全員で考えている	利用者ひとり一人のホームでの様子等を、毎月おたよりとして郵送され、家族が外出・外泊の許可を得る時、服薬の状況等連絡事項を詳細に伝えて家族からのアンケートにより、意見や要望の収集に努められている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日に本部で行われている主任会議で情報の提供を行っている、又月に一回のレーブ会議で職員の意見を聞き対応している	全職員参加の会議は、研修の報告や本部の会議内容を報告して、業務における周知を図られている。申し送りの内容は全職員で共有されている。勤務においても職員の意向を理解して作成されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽しんで働ける職場作りに日々努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々目標を管理者が把握しており、目標達成に必要な研修は積極的に参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が、他のグループホームや事業所との交流を通じて一緒に学び親睦を深める機会を作りたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から詳しく話を聞いて、思いや不安を受け止め、安心してもらうことから始めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、ホームとしてはどのような対応出来るか、事前に話し合いをしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに出来ることは実行し、出来ないことも検討し対応できるようにしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者の意思を尊重し、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での本人の様子を毎月月報でお知らせしたり、電話にて伝えたりしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会してもらっている、又ご家族様に外出、外泊届けを出していただき、墓参りや一時帰宅をして頂いている	家族が集まる法事やお盆・正月には外出・外泊の許可を得て、馴染みの人々や場所との関わりが持てるように、又、老人保健施設での催しに参加して、馴染みの方との出会いも大切に支援されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間は出来るだけホールで過ごし、利用者同士が話をしたり、テレビを見たりするようにしている又誕生会の行事や、定期的に花見や買物などの外出をするようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じ、相談・支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望・意向等を日々の生活の中で聞き出し把握に努めている。	職員は、日常生活の中で、できるだけ語りかけに努め、利用者の思いや意向の聞き取りの内容を会議の中で話し合い、介護計画に活かして実践に努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の出来ることは何かをご家族様とも相談し、その有する力を把握する。又日勤、夜勤等の申送りを蜜に行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がモニタリングを実施し、それを参考にしてサービス担当者会議を開き、利用者やご家族の要望を聞きとりより良い暮らしができるよう介護計画を作成している。	書式の作成により、利用者ひとり一人の生活歴を把握すると共に、生活状況の記録をデータ分析している。そして、職員担当者が介護計画を作成され、職員会議で話し合い、計画の添削をし、家族に説明と同意を得られている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを把握し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人やご家族のその時々状況などに応じて、いろいろなサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員や警察、消防、自治会長などに参加して頂いており周辺情報や支援に対する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、本人・家族が希望の医療機関へ受診している 協力医以外は基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が代行している	他科受診は家族の理解と協力を得られている。利用者の容態の急変時は、併設の老人保健施設の看護師に連絡して対応され、24時間体制で利用者の体調管理に努められている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と24時間体制で連絡、相談でき看護師が必要に応じ訪問してくれる		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りはしない方針で重度化した時や急変時は、他の施設に移って頂く事や対応について入居時に説明している	法人の方針に沿って、入居時の家族への説明文書である重要事項説明書の重度化した場合や終末期に向けての支援について、文書の内容を見直すことを検討されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は受けているが定期的には行っていない ケース別の勉強会・実技を定期的に行ない実践力を身につけたいと思っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に火災を想定して避難訓練を行っている	避難経路は、玄関からと廊下側の出口にスロープを設けて、2箇所確保されている。夜間想定避難訓練はされているが、消防署立会いには至っていない。スプリンクラーを12月に設置予定である。	利用者の安全を考慮するうえで、火災・地震の消防署立会いの訓練や緊急時持ち出し利用者ファイル(顔写真入)の作成及び、備蓄水(最低3日分)等の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に注意し尊厳を守り、声かけしている。	利用者への言葉掛けの大切さを認識され、失禁時などは、さりげなく居室のトイレに促して対応されている。利用者には親しみを持って、穏やかな支援に努められている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ること、出来ないことを見極め、その時の状況に合った声かけをしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人ひとりのペースやコンディション、希望に沿って支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にて好みのカットをしていただいている。また、行事等はお化粧をご自分でされたりと、それぞれおしゃれをされておられる		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けなどを利用者と共にいき職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるように雰囲気作りをしている。	併設の老人保健施設の管理栄養士による献立とカロリー計算のもと、畑で収穫できた野菜が食卓に上がる事もある。利用者もできる範囲で調理に参加し、職員も一緒に食事をされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に沿って調理している。定期的な体重測定を行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけをして歯磨きをしていただいている。出来ない方に関しては毎食後に口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて介助を行っている トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行い、紙パンツが必要な方には使ってもらっている。	居室にトイレがあるので、利用者は自分の居室のトイレを利用される。朝、トイレの掃除をする時、便の付着があるかないかで排便の記録と、利用者ひとり一人の排泄状況を記録して、排泄支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操、水分補給を行い便秘対策に取り組んでいる 散歩等も誘っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は1日おきにしているが、汚染(失禁など)、したり、希望がある場合は入浴できるように支援している。	入浴は、午前中の中の入浴で一日を気持ち良く過ごしてもらえるように支援されている。入浴を嫌がられる場合は、言葉かけの工夫で入浴を促されている。衣類の交換等で清潔保持に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている 自分で出来ない人には投与している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	時々、買い物に外出したり、暖かい日は戸外に弁当を持って出かけ、楽しめるよう支援している	ホームの庭は広く、避難用のスロープを利用して職員と共に散歩や日光浴が出来るようだが、安全性を十分に考慮して柵の工事を検討されている。公園等へ花見などの外出の機会を多く持たれている。利用者と一緒に買い物にも出かける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて管理し要望があればいつでも使えるようにしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける事ができる方には掛けられるように支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下は季節によって飾りつけを変え、廊下には外出時の集合写真などを飾り、楽しめるようにしている	共用空間には、畳のコーナーに炬燵を設けられ、利用者はソファで寛いでテレビを視聴されている。湿度計を設置して、立地的に霧が発生するので除湿をしたり、空調に配慮をされている。食堂からの景観が素晴らしく、和風作りの落ち着いた雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳で一緒に洗濯物をたたまれたり、ソファではテレビを見たり、気の合った人同士でおしゃべりをされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様それぞれ使い慣れた物を持ち込まれている 写真・仏壇など	利用者の希望に沿って、家族の協力もあり冷蔵庫やテレビの他に必要な身の回りの品物を持ち込まれている。居室は、洗面台、トイレ、箆箆、ベッド、寝具は備え付けで、ゆったりと過ごせるように整理されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易なように工夫しているが転倒などの恐れがある方は見守りを徹底している。		